

# 吾が師を鑽仰すさんこう（五井先生のことども）

横関 實（白光真宏会初代理事長）

五井先生が初めて、市川市へ来られたのは、昭和二十四年秋だったと思う。

生長の家の講師ではあるが、外の講師方とは大分違った先生で、奇蹟的なことをやり、先生に祈ってもらおうと、病気が治ったり、運勢が好くなるというので、市川の生長の家の信徒達が、順番に、自分の家で講話をして頂きたい、私の家へ来てお祈りをしてもらいたいと、先生の来市を熱望して、引張瓶との評判であり、その当時熱心な生長の家の信者であった私にも、是非お目にかかったらと市川誌友の幹部さん達から奨められた。

その当時私の物好きで、日蓮主義の祈祷や、現在のメシヤ教の前身である日本浄化療法や、その他何かやかで、研究して得た、生命磁気放射や、自然運動療法で、病人を癒すこと

井先生ツ」と声をかけたら、先生は振り向いてニッコリされた。私は「ご苦勞様でございます、ありがとうございます」とごあいさつして、あ、嬉しかったと、少年のように胸をときめかした。それが五井先生にお目にかかった最初であったが、恐らく先生は大勢の中だから、そんなこと覚えておられない筈もなかったと思う。

早速市川誌友の方に頼んで、私の家で講演をして頂き、四十人位の人々ともども先生のお話を熱心に聴いた。お祈りもして頂いた。

その日の御帰りがけに、フト私の長女の妊娠している、まさ子を見て「一寸ここへいらっしやいお祈りをしましょう」とおっしゃってお祈りをして下さった。何か変ったことがあるのだなあと思つて後でまさ子に聞いたら「今日お医者さんへ行つたら、胎児が逆さ子になっているから一週間後に注射してみましよう」と言われたとのことであった。一週間後に医師のところへ行つたら「正常になっておりますから大丈夫です」との診断で、今更ながら、皆、先生のお力に驚いたり喜んだりした。

幸い私の家は相当の収容力があるのと、地の理がよいためか、先生の講話の場所に使つて頂く度数が多くなつたので、

を覚えたり、少しばかり生長の家の本を読み、谷口教祖の講習を受け、熱心に神観想などして、いささか真理が解つたと思ひ上りかけていた私は、多分霊媒か何かで、予言でもするのだからくらいに思つて、まあそのうちに一遍お逢いしてみようくらいに片付けていた。

それはその年の十一月二十二日、谷口先生の誕生日の記念講話があつた時だつたと思う。谷口先生の講話の済んだ後で、演芸会があるので、その舞台装置に骨を折つている、若い元氣な、芸術家のような人柄の良い先生が、五井先生だと聞かされ注意して見ると、数多い少年や少女がなついでいて、つきまといつている。良寛さんを若くして、現代に連れて来て、洋服を着せたらこんなかなあ、と思つた途端に、何だか急に懐かしさが込み上げて来て、まるで旧知に遇つたように「五

先生の教義がだんだんわかるにつれ、今まで生長の家の教えがよく判らなかつた真理が、よくわかるようになって来た。

次の年二十五年六月には、先生が奥様をお迎えになることになつたので、お二人きりの新居を構える必要が生じて来た。市川の信者は何とかして市川へ住んでいただきたいと熱望し、どうか私の家へ、どうか私の家へ、私の家の部屋へと申し出る人が沢山あつたが、信者さんではお金を取つてくれなから、いやだとおっしゃる。そうなるとうそなかなかに急な部屋は無い。奥様がお興入れするという適当な部屋は見つからない。信者達は気がでないのに、ご当人は平氣なお顔をしておられる「サーニ神様は人間に必要なものはご存知ですから、ちゃんと用意して下さいますよ」と、氣を揉む私等を却つて氣の毒がつかれたが、なるほどいよいよ当日になつたら、思ひもよらぬところから、是非使ってもらいたいという部屋が出て来て、権利金も丁度先生のお手許にあつた金額で一ぱいという、私等が見ると実に不思議な決まり方で新居が定まつた。

「必要に応じて必要なものが与えられる」ということは、安心立命の最も大切な要素であるが、このように五井先生は何かにつけて、身を以て現実的に見せて下さるのである。

信者は大喜び、何かという先生の所へかけつける。また先生のことを聞き伝え、先生のお宅へ来てはご指導を受け、救われる人々が日増しに多くなって来た。その当時は午前中だけというのに、午後四時五時頃まで帰らぬ人もあった。その間先生は乞われるままに夕刻から講話やらお祈りやらに方々へ出張された。その中には、大会社の運命を左右するようなご相談やら、方針指導もあつたようである。

先生もまだ三十三歳、奥様も二十九歳、本来なれば新婚の夢園にして云々という、楽しい、嬉しい、二人きりの生活を樂しむところなれど、朝早くから夜遅くまで、人の出入りは絶えない。普通だと随分つまらないわけだけれど神様から頂いた奥様だから、実に似たもの夫婦の本領を發揮して、夫唱婦隨の素直さ、日本女性の美德の権化のようなお方で、ただ先生の愛行を陰ながらお手伝いして、内助の功を無意識の中になたてておられ、この方が最近まで、高等学校に英語の教鞭を執つておられたなどのご様子は、微塵も見えない。

その中に先生が「こども二年位でしょうよ」とおっしゃつておられた通り、家の持主が他へこの家を売ることになつたので、ご移転の氣運となつた。

五井先生も奥様も、実に金銭に恬淡な方で側から見てもう少々くらい欲があつてもよきそうなものだと思われるくらいで、或る場合余りに馬鹿々々しくさえ考えられるほどである。少し余裕が出来たかと思つて誰かに貸してしまふ。勿論そう返す人は滅多に無いから、お貸し下されることになるわけである。酒も煙草も生れつき嫌い、別に好いお召物を着たいとは思わぬらしい。食物も余り沢山召上らない。普通の人より少量で、まあ肉体を維持するに必要なだけというところ。折角招待されても宴会が一番つらいとおっしゃる。ただ折角だから相手の愛念を受けるといふわけである。一番好きなものは？とお伺いすると、人ですよ、私は独りではとてもおられませんとおっしゃる。

松雲閣で私達家族と起居されるようになってすでに一年半近くなつた。おおよその人は一緒に住んで三、四ヶ月も経つと、何か欠点が見えて来て、たまには密かに愚痴の一つも出るものであるが、先生御夫婦と一緒に居れば居る程、好きが増して来る。五井先生の性格を一口で言うて、愛である。愛そのものである。よくある宗教家のように厳しくて近寄り難いかと想像する人もあろうが、無邪気で、明るくて時々下手な洒落などでみんなを笑わせることなど度々ある。殊に謙遜

東京には家を提供して、こちらへ来ていただきたいという信

者さんが数名あり、中にはこの際、宗教法人にして、教祖になられご発展なさつては、とすすめる人もある。市川の信者たちはもう今では、市川の先生だから何としてでも市川に止まっていたきたいとお願ひする。私は何とかして私の家（松雲閣）へと心願していたが、商売が商売だからと遠慮して外を探したりした。ところが先生は逆に、商売が料理屋だから、とかく変に堅苦しく思われ勝ちな神様ごとをやる先生がいて、万一商売の邪魔になつては氣の毒だと思つていて下さつたと、後で判つた時、こんなささいな事にも先生は、氣を遣つて下さつたのか、何とありがたいことだろうと、先生の愛情の深さに、ただもう感激して胸が詰まつた。

松雲閣へとは私ばかりでなく、市川の信者さん達も念願していたことなので、神様もあわれと思召したか、最後の五分間に今の松雲閣へご移転が定まつた。そこでよりより信者達も相談して、これを機会に会員組織にして、先生に金銭関係のご配慮をかけぬようにして「一人でも多くの人を救いたい」という御思召を、多勢の人々に伝えて、人助けをしようということになり、先生のご快諾を得て、五井先生鑽仰（さんこう）会が十一月一日発足した。

なことは特別で、尊大振つたところは更に無く、普通の人より丁重である。

この方のどこに、人類の将来をト（ぼく）し、世界の状勢を通観し、東洋民族の結集を念願し、日本民族のために、世界人類のために、神そのままの大慈悲を出現さすべく、身命を賭して、愛を行じている人と見られようか。神命天にあり、かくの如き人格の人なればこそ、神が御使用になるのだと思われるのである。然り神はかくの如き人を必要として用意し給ひ現界に下して奉仕し給うのである。

この事は、先生のご指導ぶりを見ると、成程とうなづけるのである。

よくある例だが、或る人が事業不振の打開策を相談に来たとする。先生は、あなたは今がどん底であるが、辛辛して時期を待てば一年後には大変有力な協力者が出て来ることになつて居るから、その時また相談にいらつしやい、というようなふうにご指導する。果して一年後くらいに、その通り実現するので又御指導を受けに来る。この人一人だけのことならば、記憶していることが出来ようが、現在のところ毎日百人内外の人に会つて、一々祈つたり指導しておられるのだから、そんな古い事を覚えておられるものではない。それにも拘わ

らずちゃんと前の続きのご返事が出て来る。人間業では出来ないことである。

病気の場合など医者に見たてがどうあろうと、これは治ると先生が請け合えば必ず癒る。大丈夫らしく見えていても、永い寿命でない患者に対しては、死後幽界で救われるようにお祈りすると共に、家人に知らせた方がよいとお思ひになれば、本人には内分で家族に教えて用意をさせて下さる。

結婚問題にしても、名前を聞いただけで即座に相手の性格、実力、異性との関係の有無、合性のよしあし等を適当に指導される。但し人の迷惑になるようなことは、知っておられるも言われぬ。

発明家に対して足らぬところを教えたり、鉱業家に鉱脈の有無を知らせたり、技術家に技術を、医学者に医学を説く等、超人的のご指導を断定的に平然としてされることは、神業というより外ないのである。

入学試験を受ける前の日に、ここを能く覚えて置きなさいと言われた学生さんが、当日そこが出たと驚いて居た。

こんな事もあった。或る日古い信者さんが友人だというて、一人の憔悴した人を連れて来た。先生は冒頭に「あなた死ん

んで来て、間違つて銀行が代払いをした、大変な手落ちをした、何とか支払ってくれということになったが、今日すぐ払えるはずも無し、交渉の結果、銀行が一時貸越しの計算にして、六ヶ月間に解決をつけた。何という奇蹟であろう。先生にこういうのはどういうわけでしょうとお伺いしたら「人間がよくよく行詰つた時、善意で生命を投げ出して、神様委せにすれば、神様は必ず救つて下さるのですよ」と神の愛を教えて下さった。

又こういう例もある。其方はある事業家だが、平素はおとなしいのに、大変酒癖が悪くて一旦酒を飲むと人が変つてしまひ、家人を打つ蹴る、果ては奥さんの髪を持って引きづり廻らす。親類縁者も匙を投げ、近所では付き合う人も無くなった。奥さんはもう死ぬよりしようが無いという時に、縁あつて先生のところへ救いを求めに來られた。勿論本人は来る筈も無かつたが、先生がその家へ訪問されたり、夫人を通じて主人の霊を浄めている中に、だんだん酒を飲まなくなつた。家人はホツとする、この分では倒産するかと思われた事業も順調になつて来たが、その中にお付き合ひだとしてお酒を飲んだら、わけがわからぬ大病となり、医師では治らぬので先生にお願いしてようやく回復した。それと同時に今度

ではいけませんよ」とおつしやつた。その人はサツと顔面が蒼白になつた。連れて来た友人はビックリした。一体どうしたのだと聞いて見ると、事業の失敗でやり繰りがつかなくなつた、しかも明日は、大恩を受けている店へ支払いのため渡しである手形が、銀行へ廻っているのに、どうにも支払う見込みが無く、義理合上死んで清算するより方法は無いと、覚悟していたところへ友人が生神様のような先生を紹介してやろうと言われたので、フラフラと来る気になつて、連れて來られたとの述懐である。先生は断定的に、必ず明日うまく解決がつく、と安心を与えた。

明日いよいよ銀行の交換時間が来た。先生からああは言われたものの、先生とは一回お目にかかっただけで、先生の御指導の真価をまだ本当に知るよしもないから、半信半疑で、不安な気持は如何ともしがたく、あたかも断頭台に立つもののように、今不渡りの通知が来るか、今銀行から入金金の催促が来るかとおそれていた。が何の音沙汰も無い。そんな筈は無いと思ひながら、怖いもの見たさでそれとなく先方の店へ探りを入れると、ちゃんと手形が入金になっているという。

こちらは勿論支払つた覚えは無い。狐につままれたようで、ただただ不思議がつていると、銀行の係員が狼狽しながら飛こそ飲酒が嫌いになつた。これなどは病気を契機として、神の愛が現われたのだと先生は教えて下さった。

今まで述べたことは筆者が先生の傍に侍して、見聞した二、三の実例を挙げたに過ぎない。即ち事業には繁栄の方針を与え、家庭には光明生活、結婚には幸福の相手を、各人に適業を、病める人には健康をというふうに、転禍為福の実例は枚挙にいとまがない。すべてを一貫して、先生の教えは、神より來たれる、愛とゆるしである教義を伝えると同時に、身を以て行じ、実地に範を吾らに示し給うのである。愛とゆるしであるから、精神分析で、自己を責めたり、他を批判するようなことは、先生の最も好まないところである。聖者ぶつた自己反省などは、お嫌いである。故に他の宗教のように、自覚の出来ない者にまで、自覚で病気を治せ、とは言われぬ。精神病の人や、霊の幼稚な人に自覚せよと言うても無理である。五井先生はそんな場合、お説教はぬきにして、だまつて祈つて自覚の出来るところまで連れて行って下さるのである。

例えば、たいいていの人は自分の乗っている汽車が、レールから外れているのを知らないで汽車がちつとも進行しないと

歎いているのであるが、五井先生はこれを知っておられて、だまつて汽車をレールに乗せて下さる役目をしておられるのである。先生にご指導を受けた人が、その通り実行さえしていれば、皆救われるのである。常々先生は私らに、むづかしい理屈はいらない、ただ素直に、神の愛を信ぜよ、本当に神の愛が判れば、本当の感謝が湧く、そして愛行せずにおられなくなる、その結果として安心立命を得られるのだ、と教えられる。

即ち、信仰、感謝、愛行、この三つが調いて、この世にては地上天国に住み、あの世に往きては、極楽浄土に安住することが出来るとおせられる。ただひたむきに愛行（即ち人の喜ぶこと）をせよ、愛なき處に神はましますと、と只管愛を説かれるのである。五井先生鑽仰会へ来る人は、たいてい最初何かなやみがあつて、救われたのが縁となり、嬉しくなつて何とか人に知らせて、助けてあげたいと、会へ来られぬ重病人とか、悪癖のある人とか、無信仰の人などの写真を持って来たり、人を連れて来る中に、先生の教えにふれ、不知不識愛行をする中に、ほとんどが時間の差こそあれ、まず順序として……心配が無くなる。取り越し苦労をしなくなる。知らない中に慢性病が治る。病気に罹らない。悪い癖が出なくなる。

位方角が悪いとて、方除けさせる等、とかく人に恐怖観念を抱かせる者があるが、こういうのを信じるのが迷信であつて、五井先生の場合のような本当の信仰による、神と救い、と混同してはならないのである。

しかるに現代の科学は、主として物質本位の学問に根本を置いている關係上、唯物思想に多く傾ける観があり、前述の如きことを聞いた時、実情も見ないで、迷信だと片付ける人がいわゆるインテリ層に特に多いのは、歎かわしき次第である。

人命に一番関係深い医学にしても、なるほど大變進歩して、外科手術の如きは、長足の發達を遂げ、目覚ましきものあるは力強いことであるが、矢張り肉体を対象としての研究が多く、精神方面に関しては、やや遅れておるやの感がある。米国では最近、精神肉体医師が台頭して来て、相当の成績をおさめていると報じ、日本でも追々研究されていると聞くが、大体精神分析に根拠を持つていて、病氣の原因を掴むのに、大變多い日数を要するとのことである。

それらの現状であるため、或る新興宗教では、自分の宗教により、病氣が治るとて、知らず識らず現代医学に不足を感じ、その根本に誤謬ありとして、真つ向うから挑戦し、果てはその著書の一部に、「結核は医学が作るものであると言つたら、

なる。元氣が出て朗かになる。若くなる。人助けがたくなる。必要に応じて必要なものが出て来る。物資が潤沢になる。……というふうには、現実的に万事調つて来て、知らず識らずのうちに、安心立命が得られるのである。こんなことを言うとは、実情を見ない人達は何だか夢のような、理想をならべ立てているように思われるかも知れないが、これが現実だから本当にありがたいのである。

五井先生鑽仰会へ「こちらに能くあたる先生がおいでになるようですが？」と、聞き伝えて来る人が沢山あるが、私は「先生は占者ではありませんんよ、運直しをして下さる先生ですよ」と説明して上げるのである。なるほど、一寸類の無いほど当る、人によつては氣味を悪がる程あたる。しかし悪いことがあつたとて、当りつばなしでは困るのである。先生は悪いことは知つておられても、何もおつしやらず、だまつて浄めて、運を直して下さるのである。それを知らない人は、よくある行者とか、霊媒者と間違える人がある。成る程数ある宗教家とか行者とか称する者の中には、神仏の罰があつているとか、祖先や死者の靈がたたつているとか、果ては動物靈がついているとか言うて、恐怖観念を与え、余計な費用をかけて、お祭りをさせる者とか、姓名が悪いとて改名させ、方何人も驚倒してしまふであろう、事実それほど医学を信じ切つていのが現在の社会である」等と医学でなければ病氣は癒らぬと思ひ込んでいる医学常識者に対してまで、警星印を与え、かつ「見よ政府も専門家も年々巨額の国幣を費し、施設万端出来る限りの手段を尽くしつつあるに拘わらず、年々増加の傾向にさえあるのである」と、大いに憂慮している。

要するに現代の科学の未発見、未解決の点が、まだまだあるのであつて、現代医学が病氣を未然に防ぐこと等については、相当の域まで達しているが、絶対に病氣に罹らぬところまでは進んでいない。まして酒癖が悪いとか、不良児であるとか、手癖が悪いとかいうものは、注射や手術では、まだ治すことは出来ない。運を変えることなど、とても夢想不到に出来ない。

それは精神が根本であつて、肉体は枝葉である。即ち靈主体従であるから、すべては根本の靈界を是正することにより、現象界すべてのが解決されるということに、早く氣がついて研究してくれるようになってもらいたいと、五井先生は、常々希望しておられるのであつて、特に、憑念作用に原因する難病の解決等については、迷信などと偏狭な見解を超越して、大いに研究し、人類に貢献することの一日も早からんこ

とを希望しておられ、かつまた近き将来においてこの法則が、必ず科学づけられるであろうことを知って、それが実現を期待しておられるのである。

この三月十六日の読売新聞の宗教欄に、早大教授仁戸田六三郎氏は「科学の発達をよそ眼に、愚きもの的現象が跡をたたないことは、私はもつと深い謎が人間性にあるのでは無いかと思う」と述べられ、同時に作家里見氏は「人間以上の力を求めておるのは、そういうものを自然から享けて来たのが人間である」と何れも現代科学を超えた世界を、肯定しているのである。しかし、愛なる神は五井先生の如き、超人を用意し給いて、神癒のあることを知れ、人間の尊厳さを知れ、神の無限力吾等に宿れるを知れ、そして人間は幸福であり、健康であることを知れ、と絶叫されつつ我等の自覚を促し給うのである。

現代社会の常識人の中には、何でも奇蹟的のものを見たり聞いたりすると、迷信だと片付けて物知りぶりがる人々がある。徳川時代未開の頃、平賀源内が蘭書で知った電気の学問を応用して、電気仕掛けの玩具や道具を作ったら、切支丹バテレンだと言うて大変怖がられたと謂う。今にしてみれば

実に滑稽な咄（はなし）であるが、文化の発達目覚しき現代でも、このようなナンセンスが決して無いとは云えぬ。自分達の学問で割切れぬものは、何でも迷信なりと片付ける。未発見の世界に神秘を探り、神の悲願なる絶対愛を享受し、これを愛行に移して他に及ぼす事は、我等に課せられたる一大使命である。

五井先生鑽仰会は、五井先生の御指導により、これらを解決し、病無く、なやみない、幸福一元の生活を、吾等日常生活に実現させる研究団体である。

五井先生の常に念願されておらるることは、天才的な政治家、天才的な発明家、事業家、医術家、掘り出しである。そしてその人達に協力して上げて、人類の平和と発達に貢献してもらいたいことである。

昭和二十八年春